

<b>9-7</b>			
主題	「むせの無い誤嚥」不顕性誤嚥への取り組みと効果		
法人名・事業所名	ケアハウス弘陽園		
発表者（職種）	橋本隆史（介護職員）		
共同研究(実践)者	谷口央（ユニットリーダー）、阪本祐子、中野智子、加藤朋子（介護職員）		
電 話	0422-43-1245	F A X	0422-43-3318

事業所紹介	ケアハウス弘陽園は、一般型 20 名。介護型 40 名の定員です。介護型ケアハウスは、「特定施設入居者生活介護」の施設で、要介護 1～5 までの入居者が 10 名ずつ 2 フロアー、4 つのユニットで生活しています。平均介護度は、3.2 です。
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

食事・水分摂取時にむせる方が増え、定期的な訪問歯科に加え、口腔リハビリの専門歯科医師に診察を依頼した結果、むせの無い誤嚥「不顕性誤嚥」と指摘を受けた利用者が 2 名いらした。

### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

職員の経験値に頼るのではなく、ご本人に合った食事形態や水分粘度（トロミ調節）、一口で含む量など、科学的根拠をもって判断し、誤嚥することなく、食事を楽しんでいただきたい。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

対象者は毎月 1 回嚥下内視鏡検査を実施。必ず看護師と担当ワーカーが立ち合い、場合によっては栄養士やご家族も同席した。「検査実施→アドバイス→対応方法改善→評価」を行った。食事形態・トロミ調整・一口量・食事に費やす時間・姿勢・そして予防の為に口腔体操や口腔ケアの方法を工夫し実践した。

### 《4. 取り組みの結果》

- ・ご本人の苦痛軽減に繋がった。・介護職員、看護師、栄養士の連携が強化された。
- ・根拠に基づき提供しているため、介護職員の技術向上と安心感が高まった。
- ・園で採用する市販の介護食の見直しを行った。・不顕性誤嚥への意識が高まった。

### 《5. 考察、まとめ》

実際の摂取状況を画像で確認することで、職員は理解・納得し、また適切なアドバイスを受けることで、具体的な対応策を講じることができた。情報を共有し、むせに対する意識を高め、他利用者に対しても早期受診に結び付けられるようになった。

### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

### 《7. 参考文献》

介護福祉「食事ケアの基本」（財）社会福祉振興・試験センター 2010 春季号

### 《8. 提案と発信》

今回の取り組みで不顕性誤嚥の認識不足を痛感した。むせないだけに見過ごしてしまう可能性は高い。根拠に基づき対応する為にも口腔リハビリの専門歯科の更なる積極的活用が有効と考えられる。